

行か戻るか思案坂、
決めるか帰るか辞職坂…。
かつて人々を苦しめた
高低差100mの谷間は、
現在では最新の技術により
すばらしい橋がかかっています。

田野畑を含む北部陸中海岸は、大地が隆起してできた段丘海岸。その至る所に長い時間をかけ川の浸食でできたV字の谷が点在する雄大かつ変化に富んだ地形は、村を南北に縦貫する国道45号を走るだけでも実感できます。

なかでも圧倒的な景観が広がる場所が榎木沢橋と思惟大橋付近。東へ向かって開けた地形は、連なる緑の尾根と深い浸食渓谷の大パノラマ。起伏に富む陸中海岸の成り立ちが手に取るように分かる格好のビューポイントです。

しかし国道が整備される昭和30年代以前、人々にとってここは「魔の場所」でした。どこへ向かうにも深い谷を下ってまた登らなければならない。その険しさ・厳しさは、新田野畑風土記に記された「思案坂」「辞職坂」の逸話にうかがうことができます。

宮古に郡役所があった明治・大正時代、管内の視察や出張のため田老、小本と北上して用事を済ませ田野畑に入った郡役所の役人の前には、滝髯沢、たきのしりさわ、弥生沢、榎木沢、松前沢といった100メートル以上の深い谷が次々に立ちだした。役人は初めの坂で行こうか戻ろうかと思索し、次の坂ではこんな場所にとどき出張しなければならぬのならば、そ役人を辞めてしまおうと思うほど、ほとほと参ったという。ここから榎木沢が「思案坂」、松前沢が「辞職坂」と呼ばれるようになった。

現在、国道45号は岩泉町小本から田野畑村大芦までの6.2キロ区間が地域高規格道路「三陸北縦貫道路」の「中野バイパス」として整備が進められています。これにともない平成18年2月、榎木沢橋の西側約30メートルの位置に長さ285メートルの思案坂大橋が完成。榎木沢橋の狭い橋幅の問題が解消され、利便性と安全性が向上しました。

この思案坂大橋の名は、地域の人々に親しまれているなどの理由から決定。道路整備の進展とともに「今は昔…」になったとはいえ、旧道の歴史は先人の苦勞とともにこれからも語り継がれていきます。

橋が紡ぎ出す物語の数々

キーワード
【交通】
Transit



平成18年2月に完成した思案坂大橋(左)は長さ285m、幅10mの自動車専用道路。橋梁形式や色などについて、周囲の自然環境ならびに横の榎木沢橋との景観に配慮されて作られています。この橋を皮切りに、中野バイパスの整備が段階的に進められています

三陸鉄道

全国初の第三セクター鉄道として昭和59年に開業し、車窓に広がる太平洋の絶景が人気。田野畑には「カルポナード島越」と「カンパネラ田野畑」の2駅があります



道の駅したのはた

産直プラザのほか、遠くに太平洋を望む思惟大橋コミュニティ公園も併設。園内には遊具があるほか、周辺には作家の津村節子詩碑や西塔幸子歌碑もあります



村民バス

集落間を結ぶ村民の大事な生活路線。児童生徒の通学や高齢者の通院などに大きく貢献しています

